

子ども教育通信



先輩から、自分たちの未来を聞こう!

ホームカミングデー

卒業生を支え続けるために。
気軽に足を運べる場所づくり。

大学祭期間中、卒業生の支援を目的に行われているホームカミングデー。今年も、卒業生と退職した教員の方々が久しぶりに母校を訪れ、在学生や教員とともに賑やかに同じテーブルを囲みました。参加した卒業生による近況スピーチでは、社会に出てからの活躍を現場の写真などを用いて報告。在学生から投げかけられる様々な質問や相談に、実体験をもとにした内容の濃い助言を返していました。



久しぶりに大学へ訪れた卒業生たちへ、今や同じ立場である先生から激励のメッセージがありました。



卒業生にとっても
貴重な機会。

芦原こども園・保育教諭

岡喜真子 (金津高校出身)

在学生の時に参加していたので、卒業生となってもからませたいと思っていました。近況報告スピーチでは職場で働いている写真を使って話をさせてもらいましたが、いかがでしたか。ホームカミングデーは在学生にとって有用な機会ですが、卒業生にとっても貴重なんですよ。同学年の友人たちの頑張っている姿を見てファイトが出てきました。もっとこういう機会を増やしてもらいたいですね。

平成
26年度
卒業

ホームカミングデーに参加しました!



おかげで就職試験の
心構えができた。

子ども教育学科4年

山本菜摘 (羽水高校出身)

さすが現場で働いている先輩達。スピーチからは「先生」の存在感が伝わってきました。福井市の保育所を受験している時に、直に先輩の話が聞けて良かったです。今、高めておくべき保育の技術についてのアドバイスも為になりました。すでに受験を終えている在学生もいるので、もっと早い時期に実施してもらえたらありがたいと思いました。(その後内定をいただきました。)

子ども教育学科 活動レポート!

大学祭で、実習で、子ども教育学科の先輩たちが大活躍! 日常と実際の教育の現場を結ぶ様々なステージで、充実した学びの時間が繰り広げられています。

大学祭を舞台に、普段の学びを咲かせる

フィールドワーク 「七星てんとう虫の大冒険」

2年次の授業「フィールドワーク演習」の一環として、毎年、大学祭で発表する企画を作り上げています。今年も4月より7班に分かれてアイデアづくりから制作を展開。各企画は、まず、9月にいまだて芸術館でのイベントでも発表され、大学祭でも実施しました。「親子で楽しめること」や「授業の学びを活かす」などの課題をクリアした内容は、大勢の来場者に楽しんでもらえました。



ももたろう～おにをやっつけよう～



あかさきんげきじょう

教育の現場では欠かせない
人前で演じる体験が
できてよかった。

子ども教育学科2年
坪井智美 (羽水高校出身)

「ももたろう」のお話をアレンジした音楽劇を実施。子どもたちが演奏に参加したり、物語の進行に関わったりできる内容を構成しました。音楽劇は、12月に、かこさとしふるさと絵本館でもう一度発表する予定です。



ネバーランドへようこそ



ミッションインポッシブル～びっくりおぼけをつくらう～



クレープちゃん

より深く、学んできました!

2回目の保育所実習



11月9日から21日までの約2週間、3年生の希望者が県内の各保育所で実習に参加。2年次の初回の実習では「観察」が中心でしたが、今回は指導案を作り、様々な保育を自分が進行していく「責任実習」がメインとなった、より深い内容の学びが求められました。子どもたちの成長経過を想像する力が養え、幼稚園や小学校を目指す学生にとっても非常に有用となります。

たくさん戸惑いながら、
数多くのことに気付けた。

子ども教育学科2年
伊藤力弥 (大野高校出身)

知識だけで経験のなかったおむつ替えやミルク後のげっぷ出しを実践できて良かったです。将来は、常に子どもの状況を把握しながら、子どもの主体性を引き出せる保育士になりたいです。



新著
紹介



『〈身体〉に関する発達支援のユニバーサルデザイン』(金子書房)

編著者 子ども教育学科鈴木智子准教授

〈身体〉にまつわるテーマである運動発達、身体感覚、表現、体力、不器用さ、情動、「気になる子」、性などを取り上げ、発達と支援について書かれた本です。乳幼児から青年期までの健常児と障害児を対象としており、〈身体〉発達の理解を深め、支援についての視野を深めることができます。